

謙虚に感謝の気持ちで、 真に良いものだけを厳選

有限会社人形の山川

滝澤勝彦氏

全国から同業者が視察に訪れている「人形の山川」。独自の店づくりや顧客との関係づくりが評価され注目を集めている。そんな「山川」を率いているのは、約 17 年前の 33 歳でお父様から家業を引き継いだ代表取締役の滝澤勝彦さんだ。若くして店を任されることになった当時の心境やその後の歩みについて語ってもらった。



■ 創業者である父が築いてきたもの

創業から 14 年ほどは千曲市の屋代駅前で商売をしていましたが、約 30 年前、この地に移転したのを機に人形の専門店になりました。父はお客様とのご縁をとて重視し、信用第一の商売に徹しました。その姿勢こそ、当店がお客様に選ばれ続ける大きな理由のひとつだと思っていますので、私の代でもしっかり守り継いでいます。

■ 伝統の技に触れ、その奥深さに魅了

もともと家業を継ぐ意志がまったくなかった私でしたが、繁忙期に店を手伝ううち、職人の技に触れる機会に恵まれたんです。そこで初めて人形の奥深さを知り、一気に引き込まれてしまいました。ただし、代表を継いだ時はちょうど父と意見が対立していた時で…結論が出ぬまま「後は任せるから、お前の好きにしてい」と。もちろん、父には自信を持って進言していましたが、会社の代表として決断を下すとなると話は別です。かなりプレッシャーを感じたのを覚えています。ちなみに、当時から今に至るまで口数が少なかった父ですが、父から伝授してもらった経営術は父がしてきた（背中）そのものでも、働きぶりは間近で見えていましたし、先輩方の言葉にヒントを得ながらここまで来ました。



■ 東日本大震災を機に人形の真の役割を知る

人形は日本特有の伝統や文化を伝えるものです。でも、それだけではないんですね。私が真に人形の役割と私たち専門店の使命を知ったのは、東日本大震災がきっかけでした。震災直後ではなく少し落ち着いてきた頃、被災地の希望者に雛人形をプレゼントすることになったんです。でも内心「人形なんて生活の役に立たないもの。喜ぶ人がいるだろうか？」と不安でした。しかし実際には予想を遥かに上回る方が希望してくださったんです。そうです、人形は家族の思い出そのものであり、温かな想いを伝え、心の拠り所にもなり得る存在なのです。そして私たちにはそれを伝える使命がある。以降、商売をするうえでの軸が、より太く強くなった気がします。



■ 納得するまで熟考→動き始めたら迷わずに

当社は、商品の仕入から店づくりや接客まで、私たち自身が納得して心から良いと思えるものだけを採用しています。この手法だと、結論を出すまでにかかなりの時間と労力を使いますが、その分、一度腹が決まれば後は迷わずに突き進めます。こうして自らの努力でブレない信念を創り上げることも、経営者の役目であると考えます。

「経営者というのは、良い時も悪い時も常に謙虚で感謝の念を忘れずに商売に励むことが大切だと思います」と、滝澤さん。続けて自らの経験を元に、「揺るがぬ信念と商売に対する誇りを持っていれば、苦しい時も何とか踏ん張れるもの」と、貴重なアドバイスをくださった。

滝澤勝彦（たきざわ・かつひこ）
有限会社人形の山川 代表取締役

若手経営者たちから兄貴的存在として慕われており、地域の催しにも度々駆け出されてしまうのだとか。趣味は音楽で、年数回のライブをこなしている。

